

道徳性の発達に関する研究（7）

—— セクハラ防止のために ——

佐藤 公代

（教育心理学教室）

（平成14年10月17日受理）

Study on the Moral Development (7)

Kimiyo SATOU

（問題と目的）

「道徳性の発達に関する研究（6）－セクハラ，ストーカー問題に対する大学生の意識について－」において，（1）「男女ともセクハラ，ストーカー問題には厳しい態度で批判的であることがわかった。」（2）「新聞記事の違いによって，読み方の感想の違いもあらわれた。」ことが結論づけられた。

今回は，大学生が（1）E大学のセクハラ不祥事をどこで知ったか，（2）知ったときの気持ちについて，（3）防止策を考えるにあたって，イ，芽の小さいうちにつむ方法として，ロ，信頼関係を築く方法として，ハ，大学の教官に対して，どのような意識を持っているかについて調査する。

仮説は次の通りである。

- （1）セクハラ不祥事について，メディアとしてのテレビや口コミの伝わり方は最も多いであろう。
- （2）知ったときの気持ちは，激しい怒りに満ちたものであろう。
- （3）大学教官に対して，信頼関係を築けなくなるであろう。

（方 法）

- 1）期日：2002年7月29日（月）
- 2）対象者：E大学理学部，農学部学生114名（男子62名，女子52名）
- 3）手続き：調査用紙を配布し，記述してもらう。非常に肯定的（5）から非常に否定的（1）の5段階評定とする。

(結果と考察)

表1に7月19日(金)の学長の記者会見についての人数と%を示す。

表1 7月19日(金)の学長の記者会見について

	知っている	知らない	その他
人数(人)	75	37	2
%	66	32	2

表1から、知っているのは66%、知らないのは32%である。ほとんどの学生は知っていた。表2にE大学のセクハラ不祥事について、どんな手段で知ったかの人数と%を示す。

表2 E大学のセクハラ不祥事について

	1	2	3	4	5
人数(人)	19	57	2	4	36
%	17	50	2	4	32

(注) 述べ人数のため105%になっている。

1：新聞記事で知った。2：テレビで知った。3：ラジオで知った。

4：インターネットで知った。5：その他。

表2から、テレビで知ったのが半数で、テレビの影響は大きいものということがわかった。その他の32%については、友人、知人、親などの人づたいが94%、掲示板が6%と、口コミの影響はすごいものである。

表3に学部名、加害者名を知ってしまった人数、%を示す。

表3 その不祥事については、被害者救済の観点から、学部名も加害者の名前もふせてあるのですが、インターネット上で知った人もいます。そこで、

	インターネット上で知った	口コミで知った	知らない
人数(人)	2	55	57
%	2	48	50

表3から、口コミで知ったのが48%、インターネット上で知ったのが2%で、知っている人が半分、知らない人が半分、と言う当時の結果であり、筆者としては複雑な心境である。口コミの影響というのはすごいものであるから、原稿を書いている時点では、ほとんどの人が知ってしまったのであろう。被害者救済の観点から、名前をふせているにもかかわらず、インターネット上では、加害者に対しても、被害者に対しても、容赦なく誹謗中傷している。インターネット上での誹謗中傷に関しては、噂の心理研究で考究する予定である。

防止策にあたって、表4にイ、芽の小さいうちにつむ方法としての評定の平均、表5にロ、信頼関係を築く方法としての評定の平均、表6にハ、大学の教官に対しての評定の平均、を示す。

表4から、「騙されて誘われたら、あとで家族、友人、相談所で話して助けを求める。」と

表4 防止策を考えるにあたって、イ、芽の小さいうちにつむ方法としての評定（平均）

	1	2	3	4
評定	4.0	4.0	3.8	4.2

- （注）評定については、非常に肯定的（5）、肯定的（4）、どちらでもない（3）
否定的（2）、非常に否定的（1）、で以下同様である。
- 1：騙されて誘われたら、あとで家族、友人、相談所で話して助けを求める。
 - 2：自分の味方になってくれる人を作っておいて、そこに相談する。
 - 3：学生同士一致団結して加害者に抗議しに行く。
 - 4：その他。

表5 防止策を考えるにあたって、ロ、信頼関係を築く方法としての評定（平均）

	1	2	3
評定	3.9	2.5	4

- （注）1：何でも言える関係を作っておく。
2：ある程度の距離間をおく。3：その他

表6 防止策を考えるにあたって、ハ、大学の教官に対する評定（平均）

	1	2	3	4
評定	3.8	3.7	3.9	4.5

- （注）1：見損なった。2：特別な例外的な教官もいるさ。3：尊敬できる教官だっているさ。
4：その他。

「自分の味方になってくれる人を作っておいて、そこに相談する。」は肯定的の反応であり、「学生同士一致団結して加害者に抗議しに行く。」も肯定的の反応に入る。その他の肯定的な反応としては、裁判所、警察、相談所などの外部の施設利用を提案している。

表5から、「何でも言える関係を作っておく。」は比較的肯定的な反応であるが、「ある程度の距離間をおく。」は、どちらでもない反応で、信頼関係を築く方法としては、あまり関係ないと考えているのであろう。筆者の意図としては、あまりに密着しすぎて、客観性を失ったり、亀裂が起こったときの愛憎の心理を考えて、ある程度の距離間を保つすべを提案したつもりであるが、大学生には理解されなかったのかも知れない。その他としては、「金払え」とか「興味なし」とかが肯定的な評定としてあらわされているのである。

表6から、「見損なった」、「特別な例外的な教官もいるさ」、「尊敬できる教官だっているさ」は、ほぼ肯定的な評価に近い。その他としては、「失望した」とか、「やっぱり」とかの非常に肯定的に近い評定をしている。

表7に不祥事についての感情評定についての平均を示す。

表7から、肯定的な評価は、「許せない」「こんなこと二度とあってたまるか」「何年間に渡って複数の人に、ということは、なぜわからなかったのか」という憤りが感じ取られる。肯定的な評価に近いものとしては、「悲しい」「恥ずかしい」「被害者可哀想」「加害者に対して憎い」「加害者の同僚達はどんな気持ちなんだろうか」「加害者の家族が可哀想」「被害者の心はひどく傷ついているのだからそっとしておいてやろう」「不祥事を起こさないよう、どんなことに気をつけたらよいだろうか」があげられる。その他としては、「加害者の名前をふせるべき」「加害者楽天的だ」「最悪」「人事をきちんとすべき」で肯定的な評価に近い。意外だった

表7 不祥事についての感情評定について（平均）

感 情	評 定
許せない	4.2
頭にくる	2.2
悲しい	3.7
寂しい	1.5
穴があったら入りたい気持ち	2.6
恥ずかしい	3.5
被害者可哀想	3.8
こんなこと二度とあってたまるか	4.0
加害者に対して憎い	3.5
色魔みたいな人が起こすのだ	3.1
前頭葉の未発達で、旧皮質の優位な人が起こすのだ	2.8
何年間に渡って複数の人に、ということは、なぜわからなかったのか	4.1
加害者の同僚達はどんな気持ちなんだろうか	3.7
加害者の家族が可哀想	3.6
被害者の心はひどく傷ついているのだからそっとしておいてやろう	3.5
不祥事を起こさないよう、どんなことに気をつけたらよいだろうか	3.7
その他	3.7

のは、否定的な評価として、「頭にくる」、否定的な評価に近いものとして、「寂しい」があげられる。感情移入していない、どちらでもない評価としては、「穴があったら入りたい気持ち」である。「色魔みたいな人が起こすのだ」、「前頭葉の未発達で、旧皮質の優位な人が起こすのだ」に関しては、どちらでもない評価になっているが、項目の意味が読み取れなかったであろう。

以上から、仮説（1）（2）（3）については支持された。

今回、男女別の比較やセクハラなどの防止策についての自由記述についての分析は省略とする。

（今後の課題）

- （1）セクハライメージ調査
- （2）セクハラにあわないための注意点
- （3）セクハラをする人の心理

引用文献

佐藤公代 2002 道徳性の発達に関する研究（6）－セクハラ、ストーカー問題に対する大学生の意識について－ 愛媛大学教育学部紀要 教育科学 第49巻第1号 83-87

なお、本論文を書くにあたって参考にした論文はないので、引用文献1つのみを掲載する。

（注）調査に協力して下さった皆様、有り難うございました。